

C-44 当院の人工呼吸器中央管理について

総合病院北見赤十字病院 臨床工学課

好井 透 柴田弘美 鈴江圭一 景山貴信

【はじめに】

人工呼吸器は患者の生命に直接関わる重要な医療機器のひとつである。そのため安全管理は厳重に行わなくてはならないが、それに伴い備品コスト、保守点検費用等がかさんでしまう機器の一つである。当院、臨床工学課ではME機器管理室設立を期にICU、NICUを除く一般病棟貸し出し用人工呼吸器に関して貸出、安全保守、備品等の一括管理を開始し、安全管理の充実とコスト削減を目指している。今回は当院の中央管理について紹介する。

【現状】

当院は一般病床620床の総合病院であり地域基幹病院である。人工呼吸器保有状況はICU NICUが各7台、貸出用がレンタルを含め現在は15台であるが、当院の方針として長期装着患者には積極的にレンタル機器を使用し病院購入機器の増加を抑えているので、使用状況により院内台数は上下している。

【中央管理・貸出】

貸出機は回路セット、初期点検済みで常時管理室に準備している。さらに準備機器を含め貸出機全台、毎日動作チェックを行っている。貸出希望病棟は院内イントラネットにより在庫確認後病棟助手、又は夜間、休日であれば事務当直により貸し出しされる。貸出設置時に立ち会の依頼やトラブル等があった場合は我々がポケットベルにより24時間対応している。

【中央管理・臨床】

使用中機器は技士、看護師それぞれ専用のチェックシートを用い技士は病棟巡回時、看護師は一勤務二回のチェックを行っている。技士は病棟巡回時、担当看護師と情報交換や検計を行い協力体制、連携体制を保つようにしている。回路交換、フィルター等の備品に関しては

我々が一括して管理している。

【中央管理・保守】

機器の保守に関して可能な機種についてはメーカーメンテナンス講習を受講し院内定期点検を行って費用の削減をしている。その他の機種もメーカー推奨の期間での定期点検を有償であっても事務に理由を説明し行っている。

機器管理はパソコンデータベースソフトを用い当院独自の管理ファイルを作成し運用している。その管理ファイルの保守データ、稼働率データを元に更新購入、機器レンタルの検討を行っている。当院が積極的に導入しているレンタル機器のメリットであるが、契約内容を備品、メンテナンスを含めた契約とすることで備品コストやメンテナンス費用等を削減できることや、使用後のすみやかな返却を実践することで収益に大小はあってもマイナスになることはない、等のメリットがあげられる。逆にデメリットとして緊急時の対応はやはり購入機器でなくてはできないため、稼働率管理のもとバランスのとれた機器購入と機器レンタルの運用が必要であると思われる。

【まとめ】

一部署（当院では臨床工学課）が中心となり各関係部署の橋渡し役となることで、全部署がつながりを持ち円滑な業務運営、全体の安全意識の向上につながると思われる。中央管理は業務が臨床的なことから事務的なことまで多岐に渡ってしまうが、安全管理の充実とコスト削減という相反することをバランスよく進めるには必要なシステムと思われる。